



## 2022年5月末の信用金庫の預金・貸出金動向（速報）

— 預金は1.6%増、貸出金は9年1か月ぶり減少の0.0%減 —

井上 有弘

### ポイント

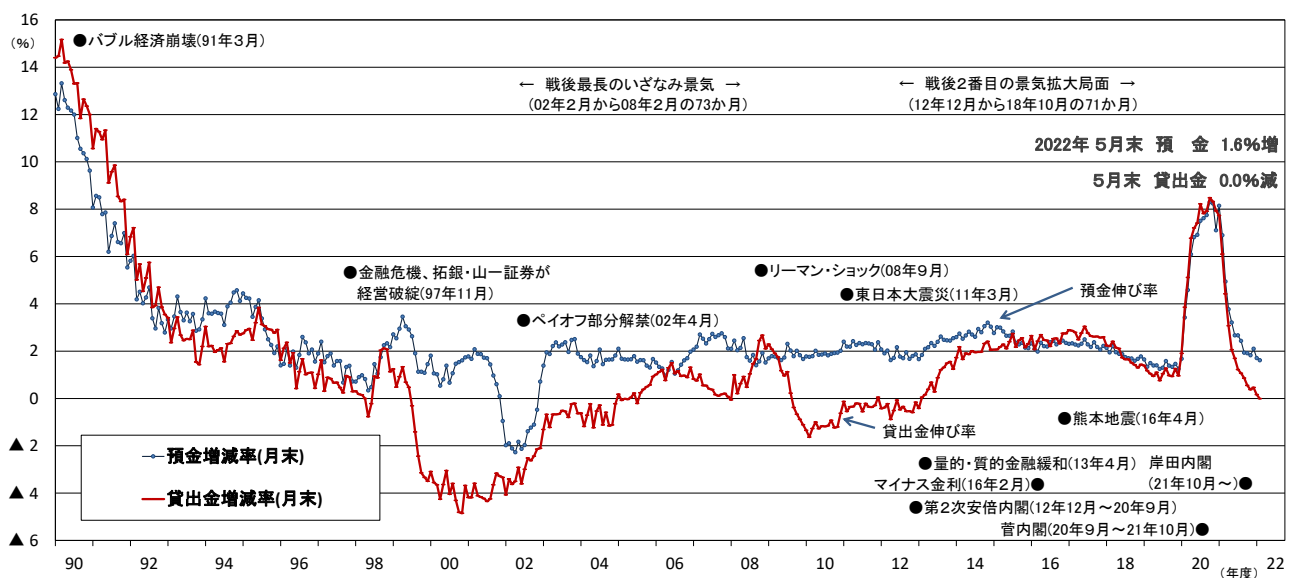
- 2022年5月末の全国254信用金庫の預金残高の合計は161.3兆円、前年同月比1.6%増となった。貸出金は、78.4兆円、同0.0%減となり、前年同月比で9年1か月ぶりの減少となった。
- 貸出先別の動向をみると、コロナ禍の影響が一巡し、22年4月末には、企業向け運転資金は同0.4%減となり、19年2月末の同0.1%減以来、3年2か月ぶりの減少となった。
- 前年同月比では減少に転じたものの、企業向け運転資金は、なお30兆円台の高い水準にある。信用金庫においては、本業支援に取り組んでいくことが一層求められていく。

### 1. 2022年5月末の信用金庫の預金・貸出金

2022年5月末の全国254信用金庫の預金残高の合計は161.3兆円、前年同月比の伸び率は1.6%増となった(図表1)。貸出金残高の合計は78.4兆円、同0.0%減とわずかにマイナスに転じた。貸出金の伸び率が前年同月比でマイナスとなるのは、13年4月末の同0.4%減以来であり、9年1か月ぶりとなる。

20年春以降のコロナ禍における預金、貸出金動向を振り返ると、貸出金は各地の信用金庫が中小企業の資金繰り資金の需要に積極的に対応したため、20、21年度と高い伸び率を示していた。預金も、資金繰り資金や各種給付金の預金口座での滞留、家計の消費抑制などから大きく増加した。このため、21年1、2月末には預金、貸出金の伸び率とも同8%を超え、ほぼ30年ぶりの高い伸び率となっていた。21年度に入ると増加一巡から伸び率は低下し、年度末の22年3月末には預金が同2.1%増、貸出金が同0.4%増にまで低下していた。

(図表1) 信用金庫の預金・貸出金動向（前年同月末比増減率）



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

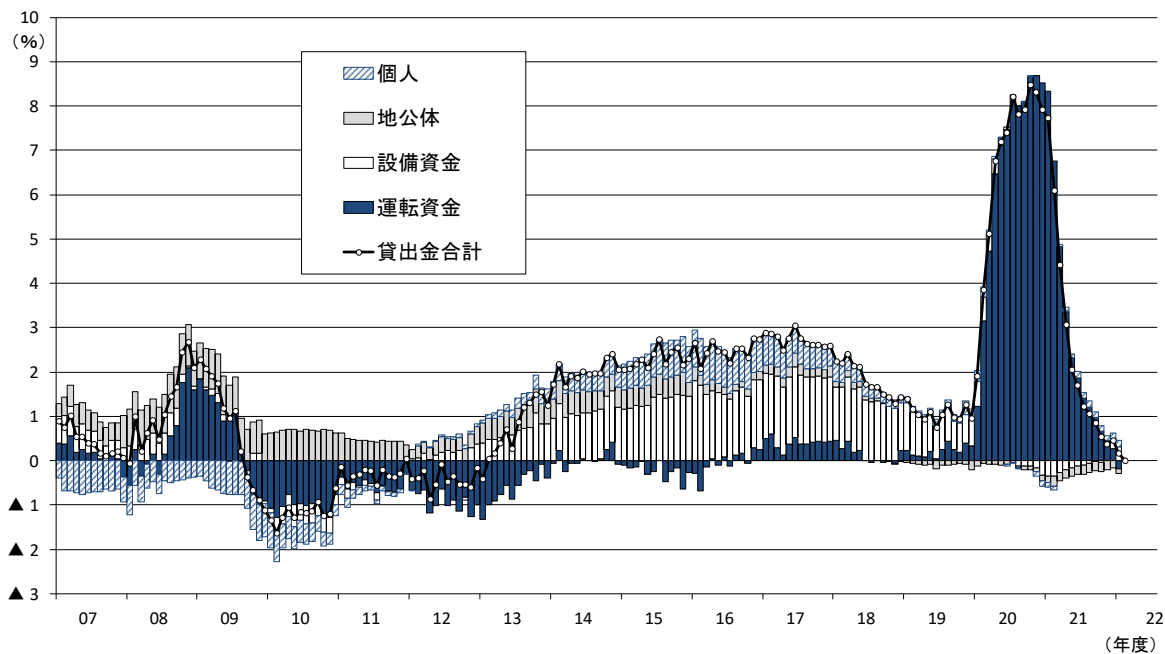
## 2. 貸出先別貸出金の動向

貸出先別の動向をもとに07年度以降の長期的な動きを振り返る(図表2)。信用金庫の貸出金は、リーマン・ショック(08年9月)の後にも、運転資金の増加から前年同月比で2%程度の増加を示した後、増加一巡や返済の進展から09年12月末には同0.3%減と減少に転じていた。10、11年度は、住宅ローンや企業向け設備資金も減少傾向で推移し、貸出金全体の前年同月比での減少は、09年12月から13年4月まで3年以上(年度末の12年3月末の同0.0%増の微増を除く)続いた。

13年度後半以降は、量的・質的緩和、マイナス金利など大規模な金融緩和策を背景に、不動産業向け設備資金の増加を主因に同2%台の伸びが続いた。戦後2番目の長さとなる景気拡大局面が18年10月に終わると、18年度後半以降の預金、貸出金の伸び率は1%台に低下していた。

前述のコロナ禍の影響が一巡し、直近データとなる22年4月末には、企業向け運転資金は同0.4%減となり、19年2月末の同0.1%減以来、3年2か月ぶりのマイナスとなった。

(図表2) 信用金庫の貸出先別貸出金動向(前年同月比増減率)



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

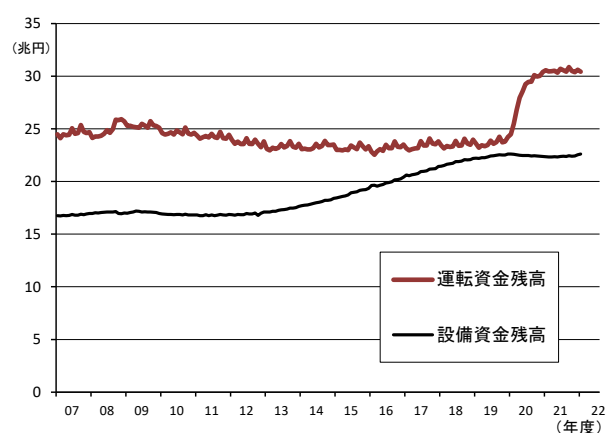
## 3. 本業支援に向けて

前年同月比ではマイナスに転じたものの、コロナ禍以降に約6兆円増加した企業向け運転資金は、なお30兆円台の高い水準にある(図表3)。今後は、資金繰り支援を支えた実質無利子・無担保の制度融資(ゼロゼロ融資)の利払いや元本返済が本格化していく。

信用金庫においては、返済原資を確保するためにも、取引先に寄り添う「伴走支援」<sup>1</sup>の手法も活用しながら、本業支援に取り組んでいくことが一層求められてくる。以上。

※「信用金庫地区別預金・貸出金(残高)」を信用金庫に還元しております。併せて、ご利用ください。

(図表3) 信用金庫の企業向け貸出金残高の推移



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

<sup>1</sup> 経済産業省「伴走支援の在り方検討会」報告書

(<https://www.meti.go.jp/press/2021/03/20220315002/20220315002.html>)等を参照